

第3回次世代に向けた兵庫県警察の組織の在り方を考える懇話会

会議録

(平成29年7月5日(水)開催分)

## 第3回次世代に向けた兵庫県警察の組織の在り方を考える懇話会会議録（要旨）

### 1 開催日時

平成29年7月5日(水) 午後1時00分から午後3時12分

### 2 場所

兵庫県公館第2会議室

### 3 出席者

#### (1) 懇話会委員(敬称略・五十音順)

五百旗頭真委員(副座長)、石橋伸子委員、北村亘委員(座長)、下村俊子委員、武内重治委員、西海恵都子委員、橋本猛伸委員、原孝委員、蓬萊務委員、山下淳委員、米田壯委員

#### (2) 警察本部

太田誠警察本部長、竹迫宜哉警務部長、松本法昭警務部参事官兼警務課長、浪花和志会計課長

### 4 会議概要

#### (1) 議事

警察本部の機能について(事務局から説明)

#### (2) フリーディスカッション

#### (3) 事務連絡

### 5 フリーディスカッションの要旨

#### 【委員】

- ・ 新聞記事で、防犯カメラを設置して、街頭犯罪の件数が大きく減少しているということが出ていた。
- ・ 防犯カメラの設置に伴う街頭犯罪等の減少を、組織なり体制の問題としてどう受け止めているのか。街頭犯罪が減れば、組織なり人のシフトは、変化があって然るべきと思う。
- ・ 犯罪捜査が、変わってきているなら、体制なり人の在り方としての変化はあるのか。今の体制で、聞き込み中心から防犯カメラ中心に変わってきたというだけなのか。

#### 【警察】

- ・ 犯罪の認知件数は減少しており、同じように街頭犯罪も減少している。検挙した後の余罪捜査、連続犯を防ぐという意味で、防犯カメラは価値が高い。
- ・ 全体的な刑事司法の流れは、客観証拠の重視であり、防犯カメラの収集や解析、科学捜査、DNAなどにシフトしていくことは必要と考えている。

#### 【委員】

- ・ 県にしても、市町にしても、防犯カメラの設置を進めてきているが、警察はどう受け止めているのか。

### 【警察】

- ・ 防犯カメラを探してその画像を回収するという捜査に、多くの要員を割くようになってきている。
- ・ 解析に関しては、専門的な技術が必要になってくる。刑事企画課内に捜査支援室という組織を立ち上げて、防犯カメラの解析から犯人を追っかけていくチームを作って運用をしている。

### 【委員】

- ・ 警察本部の機能の中でラインとスタッフを分け、その機能が適切な配分になっているかということを見ていかなければならない。そうすることにより、定員に対する人員配置が効果的・効率的になり、犯罪抑止にもつながっていくのではないか。その点を掘り下げる必要がある。
- ・ 定員というのは、例えば犯罪件数の増減や、あるいは増えるであろうという将来予測を踏まえ、一定期間におけるラインとスタッフの数により決まってくるのではないか。
- ・ 定員があつて実態がある、そして実態に対して今年はどうかという定員管理が行われて定員数を決めるものではないか。
- ・ 警察の予算について、定員の問題も含めて認識した上で、財政上の問題から十分な予算措置ができないのか。それとも実態を把握されていないのか。

### 【警察】

- ・ 全体の財源的手段の捻出は、シーリングがかかっており、その中でやりくりをして、必要なところは新規要求し、認めてもらっている。

### 【委員】

- ・ 犯罪をやる方が近代化してきている中で、警察の方が今までのガンバリズムで対応できる訳がない。
- ・ 予算については、ここは要るんだということを毎年重ねて言い続けるということも頑張らないといけない。

### 【委員】

- ・ 組織の合理化によって、今まであったものがなくなるように受け止められるケース、地域によっては、そういうマイナスの部分も出てくる。
- ・ 現状をできるだけ機会あるごとに出して行って、現状を知ってもらった上で、その次の結論があるっていうようなかたちに持って行かないと、ぽんと結論が出てきてこんな状態でしたというのは、セットで初めて知るといえるのは、理解する県民の側にとったら不親切なのかなという気が少しする。
- ・ 途中の議論で何か出せるものを、随時出していくということも必要なのかなと感じている。

### 【委員】

- ・ 伊丹では防犯カメラを、昨年度1,000台、人の集まる場所とか河川に設置した。
- ・ 設置については、半額を国からの補助金利用で実現した。国の予算をどうやって取っていくかということが、課題になるのではないかと考えている。

### 【委員】

- ・ 特に専門的な人材については、資器材の配備と並行しながら、かつ、先行的に手を打つなど、人的、質的な変化に対する対応をきちんとしていかななくてはならない。
- ・ 交番が無くなってしまうと、やはり安心感がなくなる、簡単には無くせないという意見も出てくるだろう。しかし、人材が少ない中で機動力が増している状況において、何かあれば、県警本部や警察署に即座に連絡が入り、駐在所や交番の人が現場へ行くまでもなく、パトカーが出動している。
- ・ 今と昔では交番に対する意識も全く違う。交番、駐在所、地方の警察署がどうあるべきなのか、今までの既成概念で考えてはいけない。  
減らすだけが全てではないが、機能上、役割を果たしていないのであれば、思い切って無くすということも大事である。  
また、一方で「いや違う、交番の存在は安心感、意識の問題である。」という意見もあると思う。  
今一度、交番や駐在所の果たしうる役割というものは、お巡りさんの発想で良いのかということを考えていただきたい。

#### 【警察】

- ・ 人材の育成については、大事な視点である。特にサイバー犯罪等については、民間の事業者の方から、職員を受け入れるとともに、民間の事業者にも、警察官を派遣して、研修をさせている。
- ・ 交番は、地域の安全ステーションという意味で、できれば常に警察官がいて、そこに県民の方が来たときにきちっと対応できるという体制を整えておくことが必要だと思っている。

#### 【委員】

- ・ 職員のレベルアップが必要と思うと同時に、もっと専門部署を立ち上げる必要性があると思う。

#### 【警察】

- ・ 警察は犯罪に対応できるような専門性を、常に持っていかなければならない。専門部署の立ち上げは、必要になってくる。

#### 【委員】

- ・ 自治体は病院経営も行っているが、今、求められている医師像とは、内科、外科というスペシャリスト的な人材も必要であるが、総合医的な人材、つまり、多様な価値観で、様々な判断ができる戦略的な判断思考を持った人材を育成していかなければならないと感じている。
- ・ これから求められる警察像とは、グローバルに考えると総合医的な人材ではないのかと思う。警察組織の中で、ラインの中での人材育成について、どのように対応されているのか。

#### 【警察】

- ・ 育成システムとして、昇任試験を受けて階級が1つ上がると、原則、一度、地域警察部門で勤務する。そういうローテーションを組む、人材育成システムを採っている。

#### 【委員】

- ・ 人員の問題で育児休業などの定員外措置、これはしっかり要求すべき点である。

**【委員】**

- ・ 暴力団は、オレオレ詐欺を資金源にしたり、サイバーという手段を使って、お金を取るとか、いろんなことをやるようになってきている。警察の対応が、後追いになっているのではないかと気になる。
- ・ 彼らが考えるものと同時的に、こちらもそれを掴んで、先回りしながら対応するということまでできれば良いと思うが、体制はどうなのか。

**【警察】**

- ・ なかなか全てで先に行くというのは難しいとは思いますが、警察庁を通じて、全国の先進的な取組についても紹介してもらっている。
- ・ 民間事業者との協定等によって、対応できるものは対応しており、先端の装備資器材を要するものは、予算の状況からなかなか現時点ではうまく対応できてないものもあるが、常に情報を収集しながら対応を採れるような努力をしていきたい。

**【委員】**

- ・ 世の中の変化にいかにか警察官がついて行けるようにと考えなくてはならない。

**【警察】**

- ・ 県警でも大学との官学共同研究で、サイバーインテリジェンス、重要インフラに対するサイバー攻撃みたいなものの脅威が高まっており、将来の脅威に対して大学の協力を得ながら、共同で研究している。

**【委員】**

- ・ 現場において、実際そういうことが出来る人材を育成しなければならない。講習会に参加してOff-JTをやったとしても、戦略的には学ぶけれども、警察組織の現場において指導する側と育成される側がそこに存在し、OJTを通した人材育成をしていかないと、持続可能な組織にはなっていない。

**【警察】**

- ・ サイバー犯罪では、迅速性の観点から、本部の専門部署で解析した方が早いですが、人が足りないというのもあり、事実Off-JTが非常に増えており、解析をすべきパソコンやスマートフォンを警察署から本部に持って行き、本部の担当者が、指導しながら解析をするというのが実態である。
- ・ システムについて、例えば行方不明者等に関する色んなフォーマット、入力、情報共有、検索ができるデータベースについても、中で作っている状況である。

**【委員】**

- ・ パイの充実を意識するという側面と、時代に合わせた組織というものを変化させていかななくてはならないという話とは、意識して区別をして資料等も作っていただきたい。最後のまとめをそういうところを気にしていかないといけないと思った。

**【警察】**

- ・ 新しい課を作っても、予算の要求の問題等もあるし、毎年今の現状の問題点を捉えて、すぐに改善あるいは早急に措置をする必要がある。それは組織であるとか、人であるとか、資器材も当然ある。
- ・ 県警としても、毎年春を目処に、予算を要求して、必要な、例えば資器材の要求、ネットワーク利用のパソコンを交番に整備するという、そういうような早急に手を打

たなければならないことをやっている。

**【委員】**

- ・ 我々は、警察の組織がどのように進化し、そしてどうやって将来に向かって、あるべき姿を求めようかと提案を行い、答申しようと考えている。
- ・ そのためには、実態を知って、把握をして、対策を立てる。これも大事なことであるが、もっと問題を掘り下げ、顕在化されなければならないと感じた。

**【委員】**

- ・ 機能を企画・立案、専門、広域とこう分けておられて、なんとなくのイメージは湧くが、施設の更新とかだったらわかりやすい。
- ・ なんとなく全体で足りないのは分かるが、個々にどういうようになっているのかというのを積み上げていく議論していくことも今後は必要になるのかなと思っている。
- ・ あと、連携協約等で基礎自治体の方にも少しご負担いただくなど、そういったものを活用してやっていくとか、いくつかの選択肢みたいなものも少し考えていかないといけないと思う。